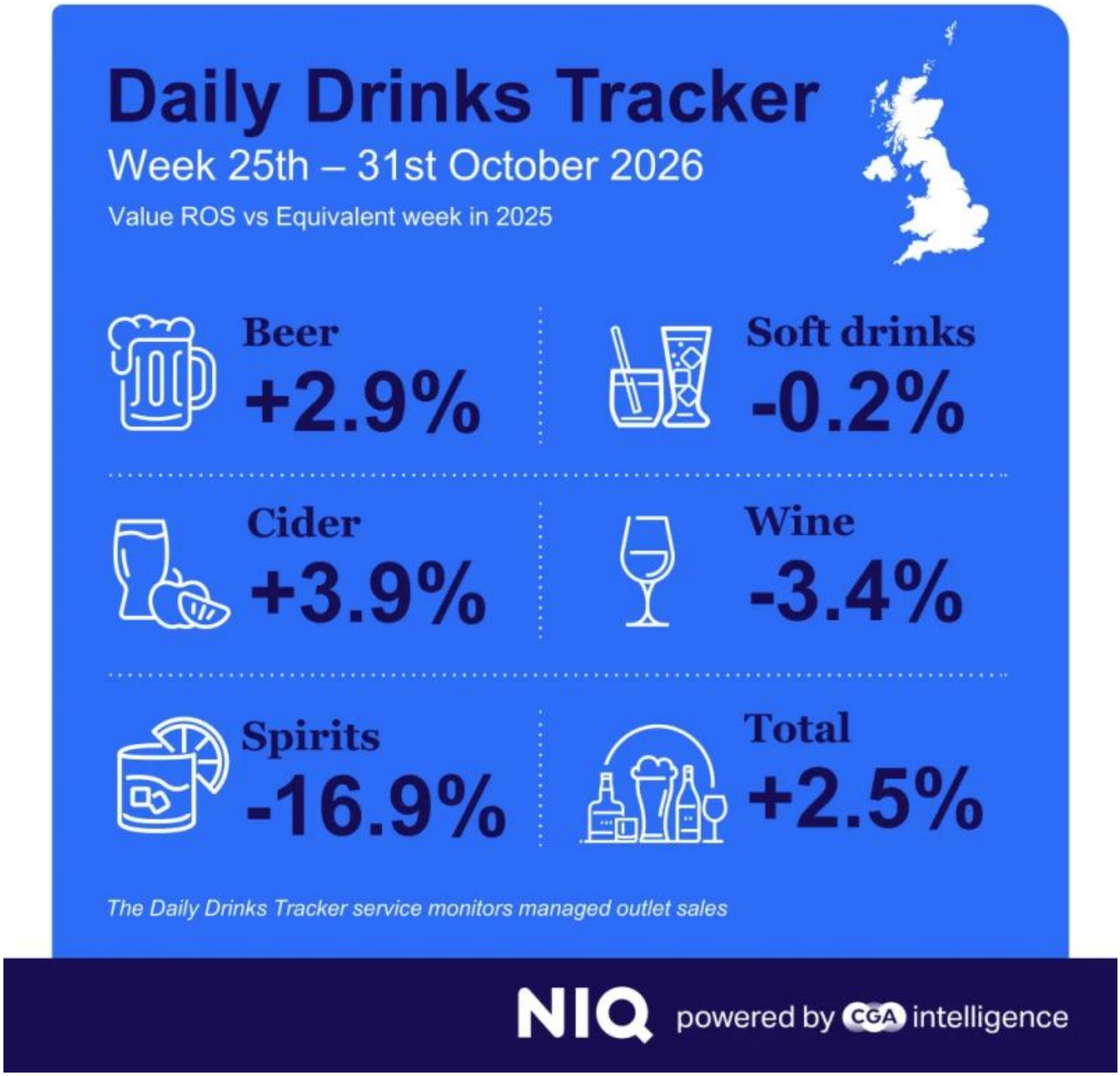
嵐「オースティン」と「ボエロ」で英国のパブの飲料売上、10月下旬の土曜日に14.2%減

NIQによると、悪天候で重要な週末の営業が振るわず、週間売上は5.8%減少。スピリッツの落ち込みが最も大きかった

2026年11月9日（月）



NIQが11月6日に発表したデータによると、嵐「オースティン」と「ボエロ」により、英国各地のパブ、バーなど酒類販売許可を受けた施設で10月下旬の飲料売上が落ち込んだ。悪天候が重要な営業週末を直撃し、月末の売上を押し下げたという。

NIQの「Daily Drinks Tracker」によると、10月24日（土）までの週における管理運営施設の平均売上は、2025年の同時期を5.8%下回った。最も大きく落ち込んだのは週末で、嵐が相次いで到来した。悪天候のため多くの客が外出を控え、自宅にとどまったことから、日次売上は10月23日（金）に11.0%、10月24日（土）に14.2%減少したと同社は述べた。

翌週の状況はわずかに改善した。10月31日（土）までの週の売上は、前年同期比で1.5%減だった。NIQによると、週の前半は堅調で、最初の5日間のうち4日で売上が伸びたものの、その勢いは週末まで続かなかった。10月30日（金）は7.6%、10月31日（土）は1.8%の減少となった。

2026年のハロウィーンは土曜日で、2025年は金曜日だったにもかかわらず、週末の売上は低調に終

わった。NIQは、売上の押し上げ効果が限られたことから、バーやパブではなく自宅でハロウィーンを祝う人が増えている可能性を指摘した。また、英国の一部地域では雨天が続き、来店客数を押し下げたという。

これらの数字は、NIQがオンプレミス飲料市場、すなわち小売店ではなく飲食施設での売上について「低調な月」とした10月を締めくくるものとなった。10月の全4週のうち3週で売上が前年を下回っており、落ち込みが嵐に見舞われた週末だけに限られなかったことがうかがえる。

特に大きな打撃を受けたのはスピリッツだった。NIQによると、スピリッツの売上は10月24日までの週に20.1%、ハロウィーンを含む10月31日までの週にも16.9%減少した。ワインも落ち込み、前者の週は6.9%減、月最終週は3.4%減となった。

ビールとサイダーはスピリッツやワインよりも健闘したが、結果にはばらつきがあった。10月24日までの週はビールが3.0%減、サイダーが2.5%減だった。10月最終週の7日間には両カテゴリーとも回復し、ビールは2.9%増、サイダーは3.9%増となった。

NIQで英国・アイルランド担当のコマーシャル責任者を務めるレイチェル・ウェラー氏は、今季初の大規模な嵐は、通常なら営業が好調となる週末に重なったため、ホスピタリティ業界にとってタイミングが悪かったと述べた。また、ハロウィーンによる押し上げ効果は多くの施設が期待したほどではなく、スピリッツのデータは供給業者やバー運営者にとって懸念材料だと語った。

一方でウェラー氏は、消費者には予算に余裕があれば外食や外での飲酒を続ける意向があるようだと述べた。ホリデーシーズンが近づくなか、業界はこの点を注視することになる。多くの施設オーナーや供給業者は、秋の売上が鈍るなか、年末の売上を伸ばすために11月と12月を当てにしている。

「Daily Drinks Tracker」は、英国全土の管理運営される酒類販売許可施設の売上を基にしている。ホスピタリティ市場におけるカテゴリー、供給業者、ブランド別の売上実績を追跡する、NIQとCGAによる調査事業の一環だ。